



# おーい！くじらぐも

Vol.54 2025 年（令和 7 年）12 月号

発行人：（福）健翔会 相談支援センターくじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見 1141 番地 1

TEL:048-580-3634 FAX:048-554-8814

MAIL:kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第 4 号事業所です。

**本年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。**



今回は、駅のバリアフリーを紹介します。まずは、地上からホームまで車イスに座ったままでも利用できるように「エレベーター」を設置している駅も、特に都心部では多くなりました。



次に、「二段手すり」です。身長などで手すりの高さの使い勝手は人それぞれです。



次は、「音声触知案内図」です。目の不自由な方に、駅構内の案内や主要施設の場所を点字・音声で案内します。

『前向きな行動で、過去は変え得ることができます。』

～映画「フロントライン」を観て思い出したこと～

12 月になり、インフルエンザや新型コロナウイルス感染が増えているとメディアを通じて盛んに報じられています。小中高でも学級・学年閉鎖が出ているとの話もあり、今一度、感染症予防を確認し、正しい対策を行いたいものです。

先日、ふとしたきっかけで「フロントライン」という映画を観ました。新型コロナウイルスの集団感染となる豪華客船が日本に入港し、災害派遣医療チームが、未知のウイルスに対する不安と恐怖の中で、様々な葛藤を抱えながらも懸命に人命救助に当たる物語です。観賞しながら当時のことを思い出していました。緊急事態宣言などであらゆるものが制限され、就職や進学に苦慮して、何もかもが嫌になっている若者が増えている報道もありました。自分が決めた進路にフタをして、我慢の決断をする子どもたちの思いは、当時、私も高校生 2 人の親として、他人事とは思えませんでした。

今になると、新型コロナウイルスの感染は、私たちにとって過去になります。それは思い出したくない過去？あんなこともあったと思う過去？人それぞれでしょう。今、過去を振り返り「辛かったあの時期、あの経験があったからこそ、今の自分がある」と思っているか？過去に起きた出来事は変えられません。しかし、それをどう捉え、どう解釈し、どう意味付けるのかは、自分で選択し決める。突き詰めれば「自分を変える」「意識を変える」ということかもしれません。前向きな行動こそが、過去を変え得る。誰かを支援するためということだけでなく、自分自身にとっても考えさせられた、あのときの現状でした。

あの経験から研修や会議、レジでの支払い、注文の仕方、葬儀の形まで世の中が大きく変わりました。今となればそれが当たり前前の生活となっていますが、すべてはあの経験で学んだ人間の知恵です。頑張っ乗り越えた実感が、過去を改めて解釈するとき、強い説得力に変わるのだと思います。

<12 月のトピックス>

私事ですが、父親が自動車免許を自主返納しました。高齢と病気のため、このタイミングとなり、本人に納得してもらうために、今までの運転に労いと家族が心配していることを伝えました。納得した父親を見て、改めての感謝と申し訳なさが相重りました。